

## 古典文法トレーニング 長文課題 品詞分解と現代語訳

大問十八（出典：『徒然草』）

◎品詞分解（名詞は基本的に非表示。非活用語は基本的に初出のみ。同色の助詞は同内容を示す。）

九月二十日格助・体修のころ連体、ある人格助・四・未受身・用謙（作しある人）に誘ハレはれたてまつりてカ下二・体副助、明くるまで月見ありくこと侍りし丁作し読過去・体に準（作しある人）、思し出づる所ありてラ変・用、案内せさせて入り給ひぬサ変・未使役・用ラ四・用尊（作しある人）完了・終。荒れたる庭の露しげきにク・体、わざとならぬ匂ひナリ、しめやかにうち薫りてラ四・用、忍びたるけはひバ上二用存続・体、いとものあはれなり副 接頭ナリ。

よきほどにて出で給ひぬれどク・体 格助ダ下二・用尊（作しある人）完了・已、なほ、事様の優におぼえて格助（主格）ナリ・用ヤ下二・用、物の隠れよりしばし見マ上二・用ワ上二・用存続・体接助（偶然）、みたるに、妻戸を格助、いま少し押し開けてサ四・用カ下二・用、月見るけしきなりマ上二・体 断定・終。やがて掛け籠らましかばカ下二用ラ四・未反実仮想・未接助（願気）、口惜しからましシクク・未。あとまで見る人ありとはラ変・終格助係助、いかでか知らんラ四・未推量・体。かやうのことは係助、ただ朝夕の心づかひラ四・終推量・終によるべしラ四・終推量・終。その人ク・用サ下二・用完了！用、ほどなく失せにけりと聞き侍りし過去・終格助カ四・用丁作し読過去・体。

◎現代語訳（『ステップアップノート30 古典文法トレーニング』参照）